

新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ④

7月検針分（主に5・6月使用分）

用途別の影響

令和2年7月の検針データを前年と比較すると、下表にまとめたとおりとなります。

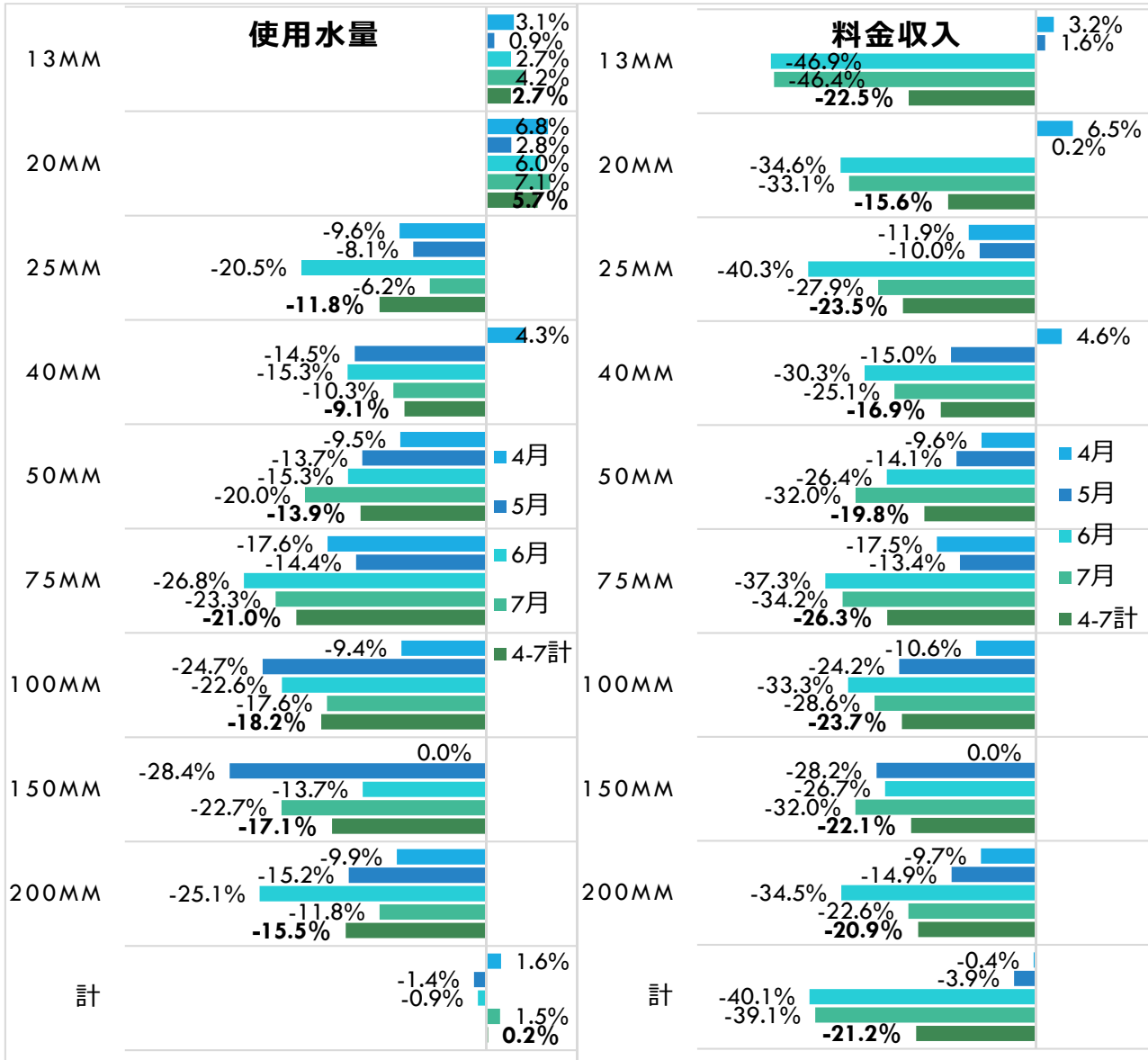
7月は、4月から6月と同様に、主に家事用に用いられる口径13mmと20mmのメーターでは、水量が4月以降では最大の約56,000 m³の増となりました。主に業務用となる口径25mm以上のメーターでは、6月より縮小はしたものの、引き続き減少しています。家庭での利用が増加する一方で、引き続き事業活動が低下していることが伺えますが、使用水量全体では、4月以来の増加となり、約21,000 m³増えました。

料金は、6月検針分から基本料金の全額と従量料金の10%の減額が始まったことにより、大きく減少し、減額措置決定時に見込んだ6,600万円/月に近い6,500万円の減額となりました。6月検針分の8,200万円を下回りましたが、これは、奇数月検針の規模は、偶数月よりも小さいことによるものです。

検針年	区分	20mm 以下	25mm 以上	合計
R1 (2019)	水量 (m ³)	1,176,159	223,904	1,400,063
	金額 (税抜き：円)	116,040,635	50,610,700	166,651,335
	供給単価 (円/m ³)	98.66	226.04	119.03
R2 (2020)	水量 (m ³)	1,232,308	189,211	1,421,519
	金額 (税抜き：円)	65,509,650	35,941,300	101,450,950
	供給単価 (円/m ³)	53.16	189.95	71.37
増減	水量 (m ³)	56,149	△ 34,693	21,456
	増減率	4.77%	△15.49%	1.53%
	金額 (税抜き：円)	△ 50,530,985	△ 14,669,400	△ 65,200,385
	増減率	△43.55%	△28.98%	△39.12%
	供給単価 (円/m ³)	△ 45.50	△ 36.08	△ 47.66
	増減率	△46.12%	△15.96%	△40.04%

口径別の変動率

口径別の変化を見ると、下のグラフに表すとおり 25mm 以上のすべての口径で使用水量が減少しています。また、減額措置の影響により、料金収入はすべての口径で減少しています。合計では、使用水量は4月以来の1.5%の増、料金収入は39.1%の減となりました。



結論

使用水量合計の変動率は、令和元年度における月ごとの対前年度の変動の範囲（△4.2%～2.5%）に近い1.5%となり、6月と比較すると20mm以下、25mm以上ともに改善されていますが、今後も使用水量の動向を注視する必要があります。